女性とオフィスと仕事を考える

Close-UP

クローズアップ

決まっていないことは自分たちで決める

「心はいつも仕事と一緒です。常に会社を大きくするためにはどうすればよいか、という気持ちを持っています」。若い社員がこんなことを言ってくれる会社は、いまどき珍しいのではないか？この言葉の主である中野美奈子さんは、ポータルサイト「Excite」を運営するエキサイト㈱で、セールスコーディネイトチームのマネージャーとして働いている。アメリカExcite@Homeのノウハウを用いたエキサイト㈱が、日本で会社を立ち上げたのが1997年の10月、サービスを開始したのは同年12月のことだ。この業界ではどちらかといえば後発の会社が、現在では数あるポータルサイトの中でもページビュー数国内第２位までに上りつめた。彼女は会社設立直後から業務に携わっている。

セールスコーディネイトチームは、セールス（営業）が取ってくる広告の入稿関連業務、在庫管理、またテレビの視聴率のように、サイトがどのくらい観られているかの調査を主な業務としている。「以前は従業員が約5,000人の医薬品メーカーで、受注・発注業務に携わっていました。ですから広告業務の経験はないし、従業員が10名程度の何も決まっていない会社に勤めることが、不安でなかったと言えば嘘になります。しかし入社してみると、決まっていないことは自分たちで決められることがわかったのです。いつのまにかやりがいと面白みが、不安を上回っていました」。

提案したことが翌日には実行へ

一般に外資系の企業は自由で、女性もフランクに意見を発表できるというイメージがある。もちろんエキサイト㈱もそんな会社だ。しかも当初はスタッフも少ない。

エキサイト株式会社

セールスコーディネイトチーム
マネージャー
中野 美奈子 さん

会社のために意見を出せば、それをどんどん取り上げてくれたそうだ。しかし同社で働く魅力は、それだけでは語り尽くせないらしい。「インターネット業界はスピードが第一ですからね。常に短期間で答えを出さなければなりません。だから会社全体のテンポがとても早いのです。私も『こうしたらどうだろう』と全社員にメールで提案したら、翌日には代表取締役であるゼネラルマネージャーから担当部署へ実行するように、という指示が出ていました。それ以外でも、決めたことが短期間で結果として上がってきます。時代の最先端にいるという楽しさがありますね」。

今では、数多くの大手クライアントも広告を出しているが、常に順風満帆とはいかなかったようだ。会社設立当初は、バナー広告という言葉さえ一般に知られていなかった。加えて「Excite」というサイト自体も「今日からスタートしました。果たして誰が観てくれるでしょうか？」という感じで知名度が低い。当然、広告はなかなか集まらない。しかも苦労して取った広告も、定着させるのは、なかなか難しかったらしい。中野さんも当初は現在の業務を１人で担当していたため、気が休まらなかったようだ。「テレビ放送の中断が大問題になるのと同様に、広告が正確に表示されないことは大変なアクシデントなのです。常に責任を感じていました。しかし会社が成長し整備されてきた２年ぐらい前から担当者も増えて、『私に何かあってもこの人が対応できる』と思えるようになると、余裕が出てきました」。ちなみにマネージャーという地位は、一般の会社では課長レベル。彼女も３人の部下を抱えている。

みんなに同じ意識を持たせていたい

エキサイト㈱の現在の社員数は約100名。昨年の５月には、恵比寿ガーデンプレイスタワーにオフィスを移転させた。「机が広くてパーテーションが高いから、仕事に集中できるんですよ。また、こ

躍進を続けるインターネットの世界。
そこで後発でありながら短期間で飛躍的な成長を遂げたエキサイト㈱。
その躍進には若い社員の仕事に対する、
また会社に対する激しい情熱があった。
そしてその情熱の源には、ワーカーの意欲を掻き立てる職場環境があったのだ。
会社設立直後から携わる女性を通じて、
彼女が仕事に引き込まれていく姿をクローズアップする。

の部屋は赤、あの部屋は青と、部屋ごとに色を替えてみたり、キャビネットを黄色にしたりと色使いがおしゃれですね。そしてもちろん眺めがいい。正直に言ってこんな立派なオフィスビルに入れるとは思ってもいませんでした。“とりあえずやれることはみんなやってみよう”と、全社をあげてやってきた結果なのでしょう」。

成長を続けているエキサイト㈱では、社員の数も増加した。「社員が15～30人のころは、みんなが共通の理念を持っていました。でも社員が100人を超え、今以上に会社がどんどん大きくなったときも、みんなが同じような意識を持てるようにしていきたいですね。私は会社が大きくなるまでの苦労を知っているので、意志統一の重要性がよくわかっています。しかし会社が大きくなってきてから入社した人まですべてに、同じ意識を持たせることは難しいでしょうし、そのあたりの意識の違いを、お互いに合わせていく努力が必要でしょうね。そのために現在も社員全員出席の会議を行い、方向性を統一させています」。

最近、"会社人間"あるいは"仕事人間"という言葉は、すっかり悪い意味で使われるようになっている。しかし中野さんの話を聞くと、本来それらはビジネスに携わる「プロ」への賞賛であることを認識させてくれる。もちろん彼女をそのような気持ちにさせたエキサイト㈱も、彼女と同じように高く評価されるべきであろう。